

障害者支援施設 鹿野第二かちみ園

1 基本方針

様々な障がい特性を理解し、その特性に対する専門性を高めるとともに、一人ひとりの個性を尊重することで、利用者が健やかにそして自らの意思をもって自分らしい生活を営むことができるように援助していく。

また、社会参加を促進するとともに、地域社会に開かれた施設運営を目指す。

2 利用者の状況（令和8年3月31日現在）

(1) 入所者状況

(人)

利用人数		前年度末 利用者数	令和7年度中の入退所状況								利用 延人員	定員に 対する 年間 平均 稼働率	年度末 利用者 数	
			入所 人員	退所 人員	退所理由別									
区 分	定員				地域移行		家庭 復帰	施設 移管	契約 解除 (1名)	死亡				
		GH	アパート等											
生活介護		50	61	1	2	0	0	0	2	0	0	14, 526	98. 1%	60
施設入所支援		50	52	1	2	0	0	0	2	0	0	17, 711	88. 2%	51
6 歳	生活介護	60	64	1	4	0	0	0	1	1	2	14, 529	90. 1%	61
	施設入所支援	60	55	1	4	0	0	0	1	1	2	18, 353	83. 8%	52

(2) 障害支援区分

①生活介護 [平均5.6]

(人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	9	23	34
女性	0	0	0	0	1	7	18	26
計	0	0	0	0	3	16	41	60

②施設入所支援 [平均5.7]

(人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	1	8	21	30
女性	0	0	0	0	0	3	18	21
計	0	0	0	0	1	11	39	51

3 事業の実施状況

(1) 支援付き意思決定の促進

ア 社会生活における場面

グループホーム等への地域移行や園外の日中サービス利用の意向などについて、6ヶ月に1回、写真などを使って分かりやすく聞き取りを行った。

併せて社会資源の情報収集をしながら意向確認時の参考資料としても活用してきた。

その結果、7年度は就労継続B型事業所の利用希望者が1名あり、スモールステップにて利用に繋げることができた。

イ 日常生活における場面

様々な日常生活場面で意思決定の機会を提供してきた。

また、個別外出、小グループ外出、ユニット外出など、可能な限り施設の外に出かける機会を設け、地域社会を体感すること（世間を知る）、自分で好きな物を選ぶこと（買物、食事メニューなどの自己選択・自己決定）などを心掛けた。

ウ 意思を推定する力

アとイを推進するに当たり、当園利用者には「意思の推定」が必要な方が多いため、その人の表情や感情から読み取るほか、その人の生活史、性向、好き・嫌い、強み・弱み、病歴などの情報把握に努めるとともに、表出性コミュニケーションの向上に向けた取り組み（コミュニケーションボードや選択ボードの活用、マカトン等）を行い、「意思の形成」及び「意思の表明」支援に努めた。

(2) 利用者支援の専門性の向上

ア 行動障がいのある方への専門的支援

発達障がい支援の専門職の派遣を2ヶ月に1回程度受けながら、毎月のように検討会を重ね、構造化、応用行動分析等の手法により、行動障がいのある方の不適切行動の軽減を図ったり、様々なコミュニケーション手段を用いて意思の表出に繋げることで生活の質の向上に努めた。

また強度行動障害支援者養成研修を受講することで専門性を高めている。

7年度は基礎研修4名受講（全ての支援員が受講済となる）、実践研修2名受講した。

イ 身体障がいやフレイル状態にある方への専門的支援

・身体機能の改善が必要な方等に対し、理学療法士がリハビリテーション計画を作成し、各種運動器具を使用して、筋力・心肺機能の低下防止や関節可動域の維持・向上に繋げるとともに、日中活動の場面で集団体操や歩行訓練等を行った。

・他法人の言語聴覚士を定期的に招聘し、嚥下機能が低下した方や咀嚼に注意が必要な方などに対し摂食・嚥下機能を評価してもらい、食形態の見直し、食事姿勢の調整、咀嚼の声かけ、嚥下体操などに取り組み、喉詰りなどの介護事故や誤嚥性肺炎の発生防止に園全体で努めている。

（7年度の評価対象者は11名）

また、口腔内の衛生のため、毎月の歯科医師・歯科衛生士の往診によるブラッシングのほか、日々のブラッシングケアの時間を増やしてさらなる充実を図った。

ウ 精神障がい等のある方への専門的支援

統合失調症をはじめとする精神障がいのある方に対し、毎月精神科医の往診により、医療との連携強化を行い、障がい特性の理解や精神状態に合わせた対応に努めた。

エ その他（障がい者アートの推進）

①「いろどりアート展」を年2回開催した。

【第1回】8月22日～31日、とりぎん文化会館、84点展示

【第2回】2月12日～16日、中電ふれあいホール、54点展示

②「きらめきアート展」に21作品を出展した。

10月11～26日、鳥取市教育福祉振興会主催、於鳥取市文化センター

③「勝谷元気まつり」に6作品を出展した。

11月20日、勝谷元気づくりの会主催、於勝谷地区公民館

④「フクシマアートWEEKS（鳥取駅前商店街の活性化と障がい者の理解をアートをとおして行うイベント）」の実行委員会として参加及び複数店舗へ21作品を出展した。

10月25日～11月9日、鳥取市・鳥取県・鳥取市商店街振興組合連合会等共同開催

⑤「あい・サポートアートとっとり展」に18作品を出展した。

12月6日～2月1日、県主催、米子市美術館・鳥取県立美術館・鳥取県立博物館

⑥「鳥取県立バリアフリー美術館」の収蔵作品に22点提供した。

⑦「山陰ご当地フォントプロジェクト実行委員会」のデザイナーの方々との協働による「第二かちみ園フォント」と「第二かちみ園パターン」の作成に取りかかった。

また、当園利用者の作品に手を加えたデザインが全国のファミリーマーケット設置のマルチコピー機にてステッカー販売された。

(3) 職員の専門性の向上とメンタルヘルスの推進

ア OJTの推進

各種園内研修（虐待（身体拘束含む）、リスク管理、感染症（熱中症・食中毒含む）、BCP研修・訓練等のほか、各分野の専門職の定期的な派遣を受けて、事例検討会、勉強会等を行い、支援の専門性の向上に繋げた。

イ オ f f - J T の推進

強度行動障害支援者養成研修、サービス管理責任者基礎研修、同更新研修、同実践研修、相談支援従事者研修など専門性を養う研修のほか、経営、人権（意思決定支援）、食品衛生等に関する各種研修に参加した。

ウ S D S の推進

社会福祉士、介護福祉士の国家試験に1名ずつ受験した（介護福祉士1名合格）。

エ チューター制度の推進

7年度は該当者がなかった。

オ メンタルヘルスの促進

- ・衛生委員会や産業医との連携を密にし、園外の相談窓口の情報提供も行うことで、職員が悩みを一人で抱え込まないようなシステムづくりに努めている。
- ・ラインケア園内研修（6/22）・セルフケア外部研修（12/18）、ハラスメント園内研修（2/19）等を行い、職員のメンタルヘルスと人材の定着に努めた。

（4）経営改善・基盤の確立

- ①7年6月よりサービス提供職員の配置を1.7：1から1.5：1に変更したが、欠員により10月からは1.7：1対応とせざるを得なくなった。
 - ②7年10月より施設入所及び生活介護の定員を60名から50名に変更したことで介護報酬の基礎単価を上げることができた。
 - ③6年度報酬改定で変更のあった重度障害者支援加算に対応するため、中核的人材研修修了者の役割追加、支援計画シートの見直しなど体制整備を行い、増収に繋げた。
- 主に①～③の取り組みにより、123,544,946円の収支差額を出すことができた。
- ・年間稼働率：生活介護（50名定員）98.1%、施設入所支援（50名定員）88.2%

4 実習、ボランティアの受入状況

（1）実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
(実績なし)			

（2）ボランティアの受入実績

鹿野町日赤奉仕団（繕い物）、職員OB（草刈り）、ミュージックケア [延べ60人]

5 附帯事業

（1）短期入所事業 定員 3名及び空床型

（2）日中一時支援事業 定員 上記同様

（3）利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	43	302	34	146
日中一時支援事業	0	0	0	0